

## 大雪山国立公園携帯トイレ普及キャンペーン

齋藤 明光（大雪山国立公園連絡協議会事務局  
環境省東川管理官事務所）

平成 30 年 7 月 10 日、大雪山国立公園連絡協議会をはじめとする、北海道山岳関係 19 団体は、「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」を発出し、大雪山国立公園全体で携帯トイレの普及に取り組んでいる。宣言の本文は、次の 4 箇条で構成されている。

大雪山国立公園では、

1. 携帯トイレを適切に使用することで雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。
2. 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。
3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。
4. 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。

本稿では、宣言の 3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけとして実施した携帯トイレ普及キャンペーンについて報告する。

### 1. 携帯トイレ普及キャンペーンについて

未だ携帯トイレを利用する機会のない人を対象に、登山中に携帯トイレを利用できる機会を提供し、携帯トイレの使用方法や快適性を理解してもらい、抵抗感をなく今後も利用してもらうことを目的として、登山初心者にも多く利用される中岳温泉、銀泉台～赤岳において、利用が集中する時期に、仮設のテント式携帯トイレベースを設置した。実施結果は、以下のとおり。

#### （1）中岳温泉

時期 ①令和 2 年 7 月 17 日～30 日（14 日間）

②令和 2 年 9 月 8 日～10 月 1 日（24 日間※）

※9 月 26 日に台風の影響で仮設のテント式携帯トイレベースが倒壊し、以降、利用はできなかった。

位置 中岳温泉（東川町）



**利用者数** 携帯トイレベース内に設置したカウンター数値は、以下の通り。

①137 カウント

②19 カウント

**実施状況** 中岳温泉は、姿見の池から裾合平を目指す登山者の折り返し地点や旭岳周回登山コースの途中地点に位置し、初心者の登山者も多く訪れる場所である。

仮設のテント式携帯トイレベースは、裾合平のチングルマの群生の開花時の7月中旬と紅葉時の9月中旬の2回設置した。利用者数としているカウンター数値は、②は19カウントと少ないが、9月20日の利用状況の様子では、携帯トイレベースに順番待ちの列ができており、実際の利用者数は、カウンター数値より多いものと考えられる。



7月17日（金）設置時

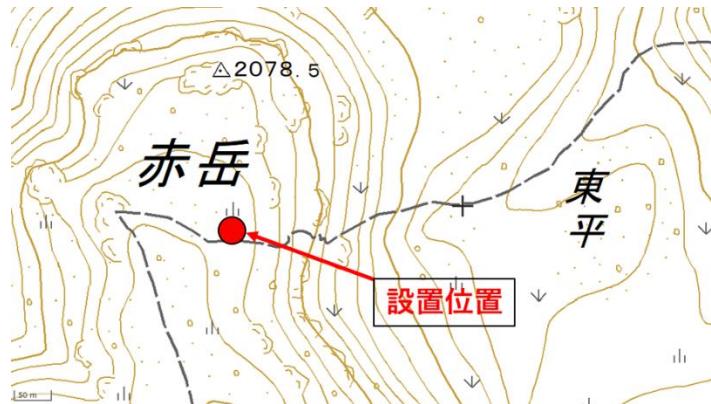


9月20日（日）の利用状況の様子、トイレベースの前には、4人の利用者が順番待ちをしていた。

### (1) 銀泉台～赤岳

時期 令和2年9月12～22日（11日間）

位置 赤岳9合目付近（上川町）



利用者数 携帯トイレベース内に設置したカウンター数値は、以下の通り。

27カウント

実施状況 銀泉台から赤岳山頂までの登山コースは、紅葉や高山植物のお花畠を楽しめる初心者の登山者も多く訪れる場所である。

仮設のテント式携帯トイレベースは、紅葉時の9月中旬に設置した。山頂で休憩や昼食をする登山者を対象に、昨年度は、山頂に設置したが、強風により倒壊したため、今年度は9合目付近に設置し、期間中の倒壊はなかった。利用者数としているカウンター数値は、27であったが、実際の利用者数は、カウンター数値より多いものと考えられる。



設置時

## 2. まとめ

今回、携帯トイレベースを設置した中岳温泉、銀泉台～赤岳とともに、休憩場所として利用者が集中する場所であり、携帯トイレベースを設置したことによって、多くの登山者に携帯

トイレを使用する機会を提供でき、また、利用者も携帯トイレベースがあることによって周囲の目を気にせず、安心して、快適に利用できたのではないかと考えられる。

携帯トイレベース設置期間中は、大雪山国立公園連絡協議会 HP やビジターセンター、旭岳ロープウェイでも携帯トイレベースを設置していることを周知したこともあり、旭岳ビジターセンターでは、携帯トイレを購入する登山者も見られた。

中岳温泉では、登山口にある旭岳ビジターセンターにて携帯トイレの購入や使用済みの携帯トイレ回収ボックスが設置など、携帯トイレを利用しやすい環境が整っていることも、利用者が多い要因と考えられる。

仮設のテント式携帯トイレベースは、設置が容易である一方で、強風による倒壊もどちらも見られることから、倒壊を防ぐ方法を検討しつつ、引き続き、キャンペーンは実施して、大雪山国立公園全体の携帯トイレの普及につなげていきたい。